

# 釧路南ロータリークラブ会報

第35回 例会報告 2018.4.6 通算1718回

・点 鐘 上川原会長

・ロータリーソング  
「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」



ソングリーダー 佐久間 光弘会員

・入会記念祝

早津 壮史会員 H28. 4. 1 (2年目)



・会長挨拶



みなさん、こんにちは！  
会長挨拶をさせていただきます。

先週の献血例会に多くのメンバーにご出席いただき、誠にありがとうございます。感謝申し上げます。今後も継続事業として行っていますが、今度は献血センターの職員の方をお招きし、献血に関する勉強もしていきたいと考えております。しっかりと知識をもった中で行動することで会社内などでも啓蒙していけると思いますので、その時は皆様に学んでいきましょう。

四月に入ってから気温が下がり、今日はみぞれが降るなど、まだまだ春は遠いと感じています。関東では桜が咲いておりますが、釧路の開花予想は5月12日位とニュースで言っておりました。5月19日に花見例会が計画されておりますし、翌週の27日には分区事業であります植樹祭もありますので、皆様スケジュール調整を今からしておいてください。宜しくお願いします。

最後に、まだまだ寒暖差のある日が続きますので風邪などひかぬよう、体調管理にもお気をつけください。

・幹事報告



- \* 釧路北、西、東、ベイ各ロータリークラブより4月のプログラムが届いております。
- \* 厚岸ロータリークラブより4月プログラムと会報が届いております。
- \* 釧路鶴野支援学校より卒業式出席のお礼状が届いております。

## ・委員会報告

### 親睦委員会 早津会員

・本日のニコニコ献金

早津 壮史会員 入会記念祝として



## ・本日のプログラム

### 「母子の健康月間に因んで」

担当 ロータリー情報委員会

◆ ロータリー情報委員会 木内委員長



今回は母子の健康月間に因んでということで、ロータリー情報委員会が担当致しますので、よろしくお願い致します。以前の会報で調べた処、南では2回目、安藤会員が環境青少年委員会でお話をしておりますので、話が重複する場合がありますがご了承下さい。

2014年10月R I 理事会は、4月を重点分野「母子の健康月間」としました。5歳未満の幼児の死亡率と罹患率(りかんりつ)(人口で割った率)の削減、妊婦の死亡率と罹患率の削減、より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、保健従事者を対象とした研修、保健ケアの提供、母子の健康に関連した仕事に従事することを旨とする専門商業人のための奨学金の支援を強調する月間であるとなっておりますが、国際ロータリーの検索で母子の健康月

間で調べても文献等はありませんでしたが、日本の各ロータリークラブ会報を見ると、お話は会員のお医者さんがしているようです。今日は不動産管理屋がお話をしますので、よろしくお願い致します。

2017年4月のロータリーの友に産婦人科医の対馬ルリ子氏が寄稿された文章をお話致します。

「ロータリー財団は、ロータリアンが以下の形で、母子の健康を改善することを支援します」として、4つのことを提言しています。

1. 5歳未満の幼児の死亡率と罹患率(りかんりつ)(人口で割った率)の削減
2. 妊婦の死亡率と罹患率の削減
3. より多くの母子に対する基本的な医療サービスの提供、地域社会の医療/保健関係のリーダーと医療提供者を対象とした母子の健康に関する研修
4. 母子の健康に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための奨学金の支援

出生について

我が国の出生数は減少の一途をたどっており、昨年の出生数は100万を割り込んでしまっています。出生率も減少していて、合計特殊出生率もやっと下げ止まったかのようなのですが、このままでは日本の人口はどんどん減っていくのは止めようがない流れとなっています。原因としてはいろいろありますが、女性の社会進出に伴って結婚する時期がおそくなったこと、その結果妊娠、出産する時期が遅くなり、出産する児の数が減ったこと、教育などの費用がかかるため多数の子供を持たないこと、さらに、結婚しない女性が増えたことなどが大きな要因となっています。結婚年齢は上昇の一途をたどっていて、結婚しない人間も増えてきており、結果的に出生数が減っています。現在では女性でも30歳過ぎて未婚の人は多く、35歳過ぎてから結婚する人もかなり多くいます。男性では30歳前に結婚する方が少ないような状態です。生涯未婚率もどんどん上昇しています。結婚年齢が上がれば、出産年齢も上昇してきます。私が医師になった頃は、24歳に出産のピークがありましたが、年々上昇してきています。当時は30歳を超えると高年出産といわれ、○高マークがカルテについていました。40歳すぎだと、普通分娩は危険が高いということで、それだけで帝王切開することもあまり抵抗なく行われていました。その後、出産年齢がどんどん高くなってきたので35歳以上を高年出産とするようになりました。現在で

は1/3が35歳以上の出産です。年齢が上昇するに従って、妊娠しにくくなったり、妊娠しても流産になったり、児の異常も増えてきます。これは、卵子の異常が増えるためです。人間の体は細胞からできています。古い細胞は死んで、新しい細胞ができて置き換わっていきますが、卵子は、生まれてくる時に持っているものがそのまま置き換わることないので、その女性と同じ年齢の細胞なのです。従って、年齢とともに卵子は古くなっていくので妊娠しにくくなったり、妊娠しても異常な経過になっていくことが多いのです。不妊症の治療として、体外受精などの生殖補助医療が最近増えており、2015年には日本で生まれた児の23.6人に一人は生殖補助医療で生まれています。現在、35歳くらいで結婚しても、まだしばらくは子供を作りたくない、と言って40歳近くになってから妊娠しようと思ってもなかなか妊娠できず、不妊で医療機関を受診する女性が多くいます。しかし、今お話ししたように年齢が上昇するに従って妊娠しにくくなります。国も以前は生殖補助医療の補助をしておりましたが、現在は体外受精の年齢制限をもうけています。2016年からは43歳以上には補助されなくなりました。これは、年齢とともに妊娠、出産率が極端に低下するため、国も補助するのが無駄になる、ということで補助しなくなったものです。しかし、学校で性教育がしっかり行われていないため、このことを認識していない女性が多く、40歳過ぎて不妊で初めて産婦人科を訪れて、話を聞いて愕然とする女性が後を絶ちません。また、年齢とともに妊娠、出産時の母体の異常も増えてきます。やはり生物としての人間の出産適齢期は20歳から30歳まで、せいぜい35歳までだと思います。さて、出産が減っていますが、カップルの希望する子供の数は1970年代から現在まで2.5人程度であり変化はなく、また実際の現存子供数は1.7人程度、追加希望子供数は0.3人程度で変化していません。実際、分娩する女性をみると、2人目、3人目の分娩が多く、合計特殊出生率が低いのは分娩しない女性が増えているためと思われます。児の出生体重は年々低下していますが、これは低出生体重児の増加も影響しています。「低出生体重児」というのは、生まれたときの体重が2500g未満の児のことで、生まれた時期はいつでもかまいません。「未熟児」というのは分娩予定日の3週間前より早く生まれた児、すなわち早産で生まれた児のことです。ちなみに、正期産というのは

予定日の3週間前から予定日のあと2週間までの間に分娩になった場合で、それより早く生まれると早産、それより後で生まれると予定日超過といい、この5週間の間が、予定日頃、という扱いになります。新生児医療の進歩により、昔であれば育たないとされていた未熟児や低出生体重児もかなりの割合で育つことができるようになり、このため、かなり早い時期でも児や母体の安全を図るためにあえて児を娩出させることも増えています。このため、低出生体重児が増えて全体の出生体重を引き下げている面もあると思われます。国も母子の健康に関していろいろな施策を行っています。妊婦健診は国の指針により自治体が補助をしているので、自治体によって補助額が違いますが、健診回数は平均で14回ということで14回の補助券が出されています。最近、児童虐待の原因として、望まない妊娠で生まれた児や、妊娠中からの児に対する母親の不安、育児不安などが問題視されています。産後は精神状態が不安定になることが多く、マタニティーブルーや産後うつ病になる産婦も多く、妊娠中から産後早い時期にかけての母児に対する支援が必要と言われています。国もその支援をするようにということで都道府県に指示を出しています。横浜市でも市が支援体制を作ろうとしていて、すでに産後母子ケア事業として、妊娠中から、または産後に精神的、肉体的な不安をかかえている産婦を、デイケア、または宿泊してのケアを行うようになっていますが、実施にあたってはいろいろな問題があり、まだ確立されてはいません。さらに、妊婦健診の補助券はすでに実施されていますが、産後の精神的な問題を早期に把握するための産後健診の補助券制度も2017年から実施することになり、細部を現在産婦人科医会、医師会と横浜市で詰めているところです。産婦人科医の対馬ルリ子氏が寄稿された文章と横浜東ロータリークラブ所属の明石敏男会員（医師）の文面を使わせて頂きました。ありがとうございました。



## ・次回のプログラム

4月13日（金）

「ボーリング大会」夜間移動例会

会場 18:30～詳細はおってご案内いたします。

担当：親睦活動委員会

・点 鐘 上川原会長

今週の会報担当：早津壮史会員